

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0172300154), 法人名 (有限会社 老古美興産), 事業所名 (グループホーム「そよかぜ」岩内), 所在地 (岩内郡岩内町字栄2番地10), 自己評価作成日 (令和 4年 8月 14日), 評価結果市町村受審日 (令和 5年 3月 15日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action kouhyou detail 022 kani=true&JigvosoCd=0172300154-00&ServiceCd=320&Type=search)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ), 所在地 (札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103), 訪問調査日 (令和4年10月12日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は岩内町に1つしかないグループホームです。建物は2階建てで、住居スペースは2階となっています。中央階段には昇降機を設置しており歩行困難な利用者様も病院受診や外出など安心して頂ける様配慮しております。2階ホールは全面ガラス張りとなっております。春夏秋冬の景色や行き交う人波を上から見下ろすことが出来楽しんで頂けることと思います。1ユニットで利用者さん同士は顔なじみの仲でゆったり過ごされています。コロナ禍で現在は叶いませんが、ご家族とも家族会や面会時の交流を通じて利用者様を含め関係を大切にしています。また利用者様へはその人らしいケアを心がけ個々の好みや生活層に合わせたケアを支援しています。ご家族へ毎回発行している「そよかぜ便り」では写真を掲載し、外出レクや体調の変化等を入れ遠方のご家族へも把握して頂ける様にしています。コロナ禍で面会もままならず寂しい思いをされて居る事と思い動画やビデオ通話を活用しながらご家族との交流もしております。食事は季節を考慮し地場の物を取り入れ、見た目や味で四季を感じられるよう心掛けています。体調等その時々利用者様に合わせた食事形態も工夫し食べやすさ、温度等に配慮しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は日本海を望む岩内町の中心部、銀座通り商店街に位置し、近くには文化センター、美術館、バスターミナル、道の駅等があり、環境に恵まれた場所にある。木造2階建ての2階に1ユニットの生活空間があり、共有空間のリビングは大きな窓から明るい日差しが入り、商店街の並木や日本海を望められ季節の移り変わりを感じることができる。利用者家族には日頃の利用者の様子の写真が掲載されている毎月発行の「そよかぜ便り」と手紙を送っている。家族の要望があれば「ライン」を通じてお話ができるよう支援している。地域住民との交流は町内の敬老会に参加したり、幼稚園児やボランティアの来訪がある等、交流を深めてきたが、コロナ禍のために今は自粛している。今年は数年ぶりに岩内祭り行列が開催され、利用者は職員とともに出店やお祭りを見学することができ、楽しいひと時を過ごした。職員は利用者の安全と安心な入居生活ができることを目指し、支援活動をしている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service goals and their evaluation results.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナで出掛けられていないので町内のお店の弁当などを利用している。	理念を事業所の玄関と2階ホールに掲示し、職員会議等で周知して職員で共有し、ケアに反映させている。利用者家族にも重要事項説明書とともに理解してもらい、パンフレットにも明記している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為地域住民との触れ合いは無いが町内の古紙回収に協力している。	町内会に入会し、日課の散歩では住民と挨拶や会話を通じて交流を深め、また町内の古紙回収に協力している。冬には事業所周辺の除排雪支援を受けている。コロナ禍の影響で敬老会、夏祭り、幼稚園児の慰問などの交流は中止になっているが、コロナ禍の規制が解けた際は、また交流参加する予定である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症を支える家族の会などの研修に参加している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の文章報告を継続している。	運営推進会議は年6回開催し、行政職員、地域包括支援センター職員、利用者家族、地域住民等の参加で実施している。コロナ禍のため、運営推進会議は実施してなく、職員による会議で運営状況の報告等を文章化し、各参加機関に配布している。それを基に意見、要望などを確認し、運営、サービス向上に取り組んでいる。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍で面会や会議等の制限を継続しているが、再開に向けての相談を常にしている。	行政担当者や地域包括支援センターとは福祉に関する書類申請、継続手続きを相談したり、助言を得ている。運営推進会議でも助言や情報を得ている。また岩内町より感染症予防のためのマスク、アルコール消毒液等の提供や情報を得て、感染予防に努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯の為、夜間の施錠はしている。非常口から外出行動があったので非常口の施錠はしている。口に指を入れる利用者さんには家族に了承を得タオルを口元に当てている。	身体拘束適正委員会を年4回開催し、身体拘束の弊害を学び、内部研修等で拘束の事例などを含めて身体拘束をしないケアに努めている。利用者が外出する時は職員が同行し、見守りを行っている。防犯上、夜間は施錠している。		

グループホーム「そよかぜ」岩内

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に繋がる事の無いよう、対応する職員を交代したり、2名で介助にあたる等工夫し防止に努めている。利用者さんに対しての言葉遣いも勉強会を開催していく。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を入所後利用している方がおり、弁護士さんと情報共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入院の際は医師の判断と家族の希望を考慮し、相談に応じている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外出行動をする利用者家族からGPSを付けては？との相談を受けたが、入所間もない為様子を見させて頂いた。	利用者からは日常の会話や生活の中で家族などから電話や手紙で意見や要望を聞くように努めている。情報は介護記録に記入し、申し送りや職員会議などで把握し、事業所運営や介護計画に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	駐車場を増やしてくれた。	毎月1回のフロアー会議を行い、職員は自由に意見や要望を出し合い、運営に反映させている。管理者は職員と個人面談を行い、その結果を母体法人に報告している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個々の状況を確認し実績を考慮し、職員と面談を設け話し合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	早く資格を取れるよう声をかけて頂き受講料も負担してくれる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	共和町のグループホームと災害時相互支援協定を結んだが、コロナ過で交流できず。		

グループホーム「そよかぜ」岩内

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お金のことを心配する利用者さんには都度心配ない事を伝えた。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人の心配をされる家族には細かな生活状況を伝え安心して頂いた。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に家族と一緒に過ごしたいとの希望があり3日遅らせた。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器すぎやお膳拭きは「やるよ！」と話し職員と共に行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御主人の葬儀で家族より最後に合わせてあげたいと要望があり、玄関前でお見送りをした。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	旦那さんより以前から2人で行ってた選挙に行きたいと希望があり行けるよう支援した。帰所後知人に会ったと喜んでた。	コロナ禍の規制で家族、知人、友人の来訪が自粛されている中、家族等には毎月発行の「そよかぜ便り」で利用者の日頃の様子を伝えていく。要望のある家族には「ライン」でお話ができるよう支援している。1年を通じて、桜の花見、あじさいの見学、紅葉の季節にはドライブをするなど、利用者の心が和むよう取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	聞き上手な利用者の部屋には訪室者が多くあり、廊下には長椅子を置き数名で座れるようにし手すりも設置した。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなった後も家族へ生前の写真を送った。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	医師より車椅子使用の指示がある利用者は口には出さず歩行し始める為、そつと車椅子介助をしたり見守りしている。	アセスメントシートや日々のケア、家族の情報から希望、意見を把握するよう努めている。把握した意見は職員間で記録や会議で検討し、家族に確認を行い、今後のケアに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前から日記をつけており、現在も記録を続けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	歌や音楽が好きだった利用者は言葉が出てこず怒る事が増え歌詞の代わりに手を叩き音を出す、誰よりもリズム感がある。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	無断外出のあった利用者家族からGPSを付けたらとの意見を頂いたが、出入りにセンサーを設置し、様子を見させて頂いている。	利用者や家族の意向を基にモニタリングを行い、職員や看護師の意見を取り入れ、4ヶ月毎に介護計画を作成している。利用者の状況に変化がある時は、その都度、見直しを行い、家族から同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	トイレに立たなくなり時間で誘導しており排泄のふき取りも行えず手洗いもできない為、介護計画に乗せ実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ過で面会が困難な時は2Fから窓越しで顔を見ながら会話してもらった。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩をしながら文化センターの図書室へ好きな本を借りに出掛けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の要望で、入れ歯を直してほしいとあり、かかりつけ歯科医を受診した。その後の微調整もしてもらっている。	利用者と家族が希望するかかりつけ医に受診できるよう支援している。職員が同行し、医師との連携を図り、適切な医療を受けられるよう支援し、その旨を家族に報告している。協力医による月2回の往診があり、看護師が利用者の健康管理を行っている。	

グループホーム「そよかぜ」岩内

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	急変があり看護師の指示のもと緊急受診した。その後入院となり退院後も看護添書をもとに常勤看護師の指示を受け対応した。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	骨折の為入院していた利用者は認知症状の悪化から退院について情報交換し話し合いながら決定した。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した利用者はコロナ過で面会ができないので近況報告や現在の終末期に向けての方針を家族へ伝えている。	利用者や家族に入所時に終末期や重度化について説明し、同意を得ている。重度化した場合は家族や医療機関と連携して方針を共有し、希望に添えるよう支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は2年に1度救命講習を受けていたが、コロナ過で消防から延期の連絡を受け出来ずにいたが1月から講習を受けられるようになった。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ過で行えていなかったが避難訓練、消火訓練は6月から消防立ち合いのもと行っているが地域協力者はまだ参加を控えている。原子力防災訓練にも参加している。	消防職員指導のもと、昼夜を想定した消防訓練を年2回実施している。コロナ禍により地域住民との合同訓練は自粛中だが、「非常災害対策の策定手引き」を参考に災害対策計画を作成し、職員に周知させている。また海が近いため、ハザードマップを参考に津波対策にも地域の方々や行政と連携し、その対策に取り組んでいる。	日頃、事業所における避難訓練は職員の認識も高く、利用者の安全確保に努めている。近年のコロナ感染を含む感染症対策の強化を重点事項の一つに加え、関係機関の協力を得て、感染症対策マニュアルを作成し、職員とともに研修を重ね、更なる安全で安心できる介護サービスに努めることに期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	着衣交換、入浴、排せつ時の介助等些細なことでも拒否があれば時間を置き対応者の交代や興味を持てるような声掛けを介助している。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、言葉づかいや呼び方に配慮し、不適切な言葉を使わないケアを実践している。氏名や写真掲載等のプライバシーの保護は入所時に説明し、同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	受診時に薬の処方があり、本人に軟膏か錠剤かを選んで頂いた。何かあれば職員が選択を求め、利用者に決定して貰っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は食事や服薬、入浴順番等「先にちょっと行ってくる～」と話す本人のペースに寄り添っている。		

グループホーム「そよかぜ」岩内

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日欠かさず化粧水や乳液をつけ、身だしなみを整えている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の物を大切にしており、落葉キノコ、タケノコ、とうきびなど皆で下ごしらえをして昔を思い出して楽しんで頂いている。	食事メニューは職員が作成し、食材は旬のものを含め、1週間分をスーパーに発注している。利用者と日常の会話の中から好みに応じた献立や季節メニューを取り入れ調理している。行事食や誕生日にはケーキや好みのものでお祝いし、またお弁当を取り寄せたりして食事を楽しんでもらうよう工夫し、支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病用に糖質オフの食材を使って手作りしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	だんだん口腔ケアが出来なくなっている利用者が多い為、個々に全介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力でトイレに行かなくなった為、時間をみて誘導し、拭き取りを忘れる方には紙を渡し自分で拭けるように声掛けをしている。	排泄チェックを基にパターンを把握して動作やサインを見逃さないよう声掛けを行い、自立排泄を支援している。日中は布パンツ、夜間はリハビリパンツを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	今まで下剤を使っていたが、自力排便ができるよう4～5日様子を見て自然排便出来るようヨーグルトやさつまいも等で工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々に合わせて温度を調節して気持ちよく入れるように支援している。順番は入りたいという人には直ぐに対応して入浴して頂いている。	週2回の入浴を基本とし、希望や状況によっては清拭や足湯、シャワー浴等により支援している。入浴剤を使用してリラックスできるよう工夫し、湯舟はかけ流し状態にして、清潔に入浴できるよう心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息しやすいように窓を閉め切る利用者へは網戸にしたり夏布団で対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み込みが悪く口への介助を嫌がる利用者へは、入れ歯を外してもらい手に錠剤を乗せ最後まで確認している。		

グループホーム「そよかぜ」岩内

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「また明日ね!」と話し食器すすぎを楽しみにしている方や好きすぎてお膳拭きを他者にとられたくない方もおり、仲良くできるよう支援している。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本が好きで外出の希望がある方へは図書館へ出かけ本を借りている。散歩等は人込みを避けて出掛けている。	自然環境に恵まれた事業所だが、コロナ禍の影響で施設内で過ごす時間が多くなっている。自粛規制の中、職員は利用者に楽しんでもらうため、1階ロビーにカフェ空間を作り、ケーキやお茶が飲めるよう工夫している。近郊のドライブを計画し、気分転換が図られるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持できるような方がおらず、家族と施設で管理している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	長引くコロナ過でビデオ通話で家族とコミュニケーションを楽しまれる方が3名いる。動画を送る人も3名いる。電話や写真で満足している方も3名いる。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	コロナ過の為、気分転換を兼ね1Fの共用空間で気の合った人と会話スペースを設け音楽を掛けながら心地よく過ごして頂いた。	ホールは食堂と一体型で広く、大きな窓からは十分な採光を取り入れ、定期的に空調換気も行い、適正な温度、湿度を保っている。窓からは港祭りや花火大会が眺められ、季節の移り変わりを楽しみながら、ゆっくり過ごせる環境となっている。ホールには観葉植物や季節の飾り物を置いて、利用者が心地よく過ごせるよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いろんな椅子に自由に座り思い思いに過ごしている。ソファで寝る方もいる。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	コロナ過で家族が居住スペースに入れない為、写真等で家族へも居室の状態を見て頂けるよう考えている。	クローゼット、温水パネル、物干しポール(乾燥防止)が備え付けられ、使い慣れたベッド、整理ダンス、テレビ等を持ち込み、心地よく過ごせるよう工夫している。掃除は職員が行い、その都度、利用者の要望に沿うように配慮するよう心がけている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	起き上がりや立ち上がりができるように簡易的にベッドに柵をつけ安全に過ごして頂いている。廊下にも簡易的な手すりを置き利用して頂いている。			